



ゆきさん(43歳)からの投稿

不妊の原因 不明

- なんだか疲れやすい
- 冷え性である
- ゲップやおならが出やすい
- 顔や唇の色が黒ずんでいる
- 顔にシミやクマが出やすい
- 肩こりや頭痛が慢性的にある

- 夜中にトイレに数回行く
- 手足がいつも冷たい
- とくにおなかや下半身が冷える
- 太りやすい
- 冷たいものをよく摂る

凍結胚移植の前・後などのタイミングで鍼治療をすれば効果があるの？

鍼治療は週1回ペースを保ち 移植2週間前から週2回にするのがおすすめ

鍼治療のタイミングですが、鍼灸院の治療スタイルや先生の考え方も違いますし、ゆきさんのお体の状態によっても変わってくるでしょう。まずは、現在通われている鍼灸院の先生に相談されて、ゆきさんにとって最適なタイミングで鍼治療をされるのいいと思います。当院では移植前の鍼治療を大切にしており、通常は週1回のペースで、無理がなければ移植の2週間前から週2回のペースで来院いただき、移植後は移植の日を入れて3日以内に1度、来院していただくようにお伝えしています。

鍼灸で「瘀血」の処置をして骨盤内臓器の血流を良くすることがポイント

ゆきさんの体質についてですが、お体を拝見していないので断言できませんが、顔や唇の色が黒ずんでいてシミやクマがでやすい、慢性的な肩こり頭痛、冷えなどといった症状から、「瘀血」の状態になっていると考えられます。「瘀血」とは体の中の血のめぐりが悪くなりドロドロになっている状態です。ですから慢性的に「瘀血」の状態では血流が悪くなり体を温めることができません。冷え症のほかに骨盤内の血流がとどこおれば月経時の状態が悪くなり、レバー状の塊が出たり、子宮筋腫、内膜症、卵巣腫瘍、子宮ポリープ、卵管癒着などの症状が出てきます。また、良い子宮環境が整わないので着床しにくくなります。鍼灸でこの「瘀血」の処置をして、骨盤内臓器の血流を良くすることがポイントだと思います。

東洋医学では「証(あかし)」といういくつかのタイプがあります。未妊ということになりますと、大きく分けて「腎虚」「肝虚」「脾虚」「瘀血」のタイプがあります。タイプを見きわめるには四診法という診断法を使います。

見た目や声、匂いなど五感を使い、そして問診、脈、おなか、ツボの反応など、お体を実際に触って、どのタイプなのかをしっかりと見きわめることが大切になります。体づくりをすすめていくと体や心に自信ができてそれが妊娠にとって大切な心のゆとりになる。

ご自宅では、20分から60分くらいのウォーキングなど適度な運動と、食事の際は最低30回しっかり噛むこと、食べ過ぎないで腹八分にするなど、早く寝ることを心がけて実践してください。体づくりをすすめていくと、ご自身の体に自信を持つことができ、心にも余裕や自信ができてきます。そういった心のゆとりが妊娠にとって大切だと思えます。鍼灸治療の応援で、ゆきさんにコウノトリが訪れることをお祈りしています。

お答えいただいた先生



三ツ川 友一郎 先生

平成3年、明治東洋医学院専門学校鍼灸科卒業。平成7年に三ツ川鍼灸院を開院。東洋はり医学会関西支部指導講師。10年以上にわたり未妊鍼灸治療に取り組み、妊娠へと導いた実績は多く、現在では9割の方が未妊治療で来院。平成24年8月に移転し、完全個室での治療を実施。脈診流経絡治療という体にやさしい鍼灸で、妊娠しやすい体作り、心作りの応援をしている。

大阪府
大東市

三ツ川鍼灸院 <http://www.mitsukawa.net/>
TEL.072-872-5678

- 営業時間／ 9:00～13:00 16:00～20:00 (平日) 8:00～12:00 14:00～16:00 (土)
- 定休日／ 日曜・祝日・水曜午後
- 住所／ 大阪府大東市住道 1-2-25
- 最寄り駅／ JR学研都市線「住道駅」
- アクセス／ 「住道駅」より徒歩3分

